

## 平成28年度第1回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成28年6月25日（土曜日）  
午前10時～午後0時

2 場所 ひきふね図書館 会議室

### 3 出席者

会 長	上田 修一	（立教大学特任教授）
副 会 長	日向 良和	（都留文科大学准教授）
委 員	安藤 芳典	（墨田区立曳舟小学校長）
委 員	西村 均	（墨田区立堅川中学校長）
委 員	持田 由美子	（図書館ボランティア「ブックトークの会」）
委 員	齊藤 宮子	（図書館ボランティア「点訳きつつき」）
委 員	北村 志麻	（墨田区ひきふね図書館パートナーズ）
委 員	佐藤 弘行	（墨田区ひきふね図書館パートナーズ）
委 員	碓氷 喜信	（公募区民委員）
委 員	成田 美智子	（公募区民委員）

### 4 議事

- （1）墨田区図書館運営協議会会長及び副会長選挙
- （2）平成27年度図書館事業の実績報告
- （3）指定管理者制度導入の進捗報告
- （4）その他

### 5 会議録

#### 議事第1

##### 墨田区図書館運営協議会会長及び副会長の選出

（墨田区図書館運営協議会要綱及び墨田区図書館運営協議会運営要領の規定に基づき、委員中の指名推選により、会長に上田修一氏、副会長に日向良和氏が選出される。）

#### 議事第2

##### 平成27年度図書館事業の実績報告

上田会長 事務局に説明をお願いしたい。

石原館長 配布資料（平成27年度墨田区立図書館事業概要）について説明

上田会長 今の説明について、順番に委員の意見を聞きたい。

**碓氷委員** 私は緑図書館を利用している。ひきふね図書館は午後9時まで開いているが、緑図書館は早いときは午後5時で閉館してしまう。他館も開館時間その他のサービスを向上させていってほしい。

**石原館長** 開館時間については、平成29年4月1日より、緑・立花・八広図書館に指定管理者制度を導入することに伴い、これまで月曜日は午後5時までだったが、午後8時まで延長することとなる。

**成田委員** 30代、40代が、貸出点数が1番多いようだ。ファミリーで来ることが多いのかな、という印象だ。その意味では、午後8時閉館というのは、あまり余裕がなく、もう少し延長してほしいと思うことがある。

**石原館長** ひきふね図書館は、駅前という立地もあり、夜にビジネスパーソンに利用してもらおう意味で、午後9時閉館となっている。現段階では、地域館については、午後8時の閉館にさせてもらおうと考えている。開館時間だけでなく、サービス内容で、ビジネスパーソンにも利用してもらえそうな事業を展開していくつもりである。

**上田会長** 30代、40代の利用がとても多いことに関して、それに対する何かサービスを考えているのか。

**石原館長** 30代、40代というと、親子で来る世代と想定されるため、親子向けのサービスをこれからも推進していきたい。

**安藤委員** 1日の平均貸出者数、1人当たり貸出点数だが、ここ10年の経年変化はどうなっているか。年代別の貸出者数と点数は、30代、40代以降が多いことはわかるが、20代から10代にかけて激減している。これは本離れが顕著であることの裏づけになっていると思う。これに対してどのような対策をするのか。また、墨田区は図書館の地域格差が大きいと感じる。向島地域には3館あるが、本所地域には1館しかない。本所地区の利用率を上げる、もしくはサービス向上についての対策はどうなっているのか。さらに、学校間の連携について、現在教育委員会では、各校に業者による図書館司書を週2日配置してもらっているが、それとは別に、千葉県の市川市や浦安市では、小学校、中学校と図書館が物流的につながっている。例えば、ひきふね図書館で借りた本を緑小学校で返すことができる、緑小学校で借りた本をひきふね図書館で返すことができる、というように、週2回配送業者が、各小中学校と地域の図書館を回って、元の図書館に戻す、ということをやっている。このため地域との連携が深く、図書館の利用率が高くなっている。そのような連携を今後してもらえれば、ありがたい。

**石原館長** 貸出者数などは、10年間、右肩上がりの傾向であり、着実に増えているところだ。10代、20代の本離れについては、小学生までは保護者と一緒に来るなどして貸出しが多い。中学生になるとクラブ活動が忙しくなって自由な時間が減り、時間的に図書館に来るのが困難になると想定している。今後も区立小中学校と

連携していきたいと思っている。

**北村委員** 昨年も30代、40代が多いという指摘があったが、その理由は子どもの本を自分のカードで借りているからだ、という指摘をして、本の種類別のデータを提出してもらったと思う。同じようなデータをつけてもらえるとより実態がわかるかなと思うのでお願いしたい。

**石原館長** 以前は、保護者が子どもや赤ちゃんの分を自分のカードで借りるという傾向があった。統計上正確に出すために、また自分の本は自分で借りられるようにするために、今年度から赤ちゃんは来館しなくても保護者が代理で登録カードを作れるようになった。また、未就学児にもパスワードを発行できるようにした。赤ちゃんが借りるような絵本は、本人のカードで借りられるようになったので、より正確なデータが出てくるものと思う。

**上田会長** 今回の統計は以前のものか。0歳から6歳という欄があるが。

**石原館長** 統計は以前の制度のものである。

**上田会長** 安藤委員から指摘のあった地域格差についてはどうか。

**石原館長** 南部地域には緑図書館しかない。建物自体は南部に1カ所だが、すべての図書館・図書室が、ネットワークでつながっているので、借りることににおいては、全図書館・図書室の資料が、自由に借りられるようになっている。財政的に図書館の数を増やすのは難しいが、サービス内容については、今後の課題として検討していきたい。

**上田会長** 学校との連携についてはどうか。

**石原館長** 現在、中学校にはひきふね図書館の職員が、週に2日、1日約5時間程度出張して支援を行っている。小学校については事業者にも業務委託して、同じく週に2日、1日約5時間程度、学校図書館に支援に行っているという状況である。26年度に比べて、日数を増やしたので、実績としての貸出数は伸びている。中学校の学校図書館での貸出数は、26年度に比べ27年度は約1.4倍になり、着実に成果が出ている。さらなる連携については、指導室、図書館及び図書館部会との間で、これから十分に検討していきたいと考えている。

**安藤委員** 私の希望は、人的な支援ではなく、物流面についてだ。

**石原館長** 安藤委員が言われたのは、学校図書館において、生徒はもちろん、一般の人も借りたり返したりできる取組をしている自治体がある、という話だったと思う。それに関しては、中学生の利用が激減しているということへの対策の1つとして、今年度の6月から、区立中学校の生徒に限っては、「学校予約」というサービスを開始し、自分の学校図書館で、区内の図書館の本を借りたり返したりできるようにした。利用が増えてくれるよう学校に周知していきたい。

**持田委員** 今の話に質問したい。中学生が自分の中学校で、学校司書を通じて図書館の本を予約したいと言ったら、その本が学校に届いて、そこで借りられるし、そこ

で返せるということか。

**石原館長** そうである。

**上田会長** 区内の中学校は今何校あるのか。

**石原館長** 10校だ。

**上田会長** そこに配送車が回っているということか。

**石原館長** まだ件数が少ないので、配送車が回っているわけではない。図書館司書が持っていくという形だ。

**上田会長** それはひきふね図書館から派遣されている職員が持ってくるということか。

**石原館長** そうである。中学校はひきふね図書館と緑図書館の職員が10名で行っているので、その10名が持参していくという形だ。

**上田会長** そもそも小学校、中学校の図書室に、一般の方が出入りすることが可能なのか。

**西村委員** セキュリティの問題がある。いつ頃誰が来て、誰が対応するのか、という話だ。司書が常駐しているわけではないので図書担当の教員がそれらの事務をするとなると、勤務時間の問題もある。図書室が玄関の横ではなく、3階や4階にあるとすると、授業中に勝手に入ってこられるのは困るし、厳しいかなと思う。ただ、返却のみのブックポストを、学校に設けるだけだったら可能かもしれない。また、先ほど中学生になると利用が激減するという話があったが、私はそう思っていない。統計資料の登録者数を見ると、13歳から15歳は、4,629人の登録があるようだ。これはそれぞれの館での重複登録があるのか。

**石原館長** 重複はない。

**西村委員** 区内の中学1年生から3年生まで、昨年度は合計6千人弱である。その中で登録者数がこれだけあるということは、かなりの数だと言える。ただし、貸出点数で見ると、この人数で約3万点しか借りていない。1人当たりの貸出数は、登録者数に比べて非常に少ない。図書館には登録はしているが、借りるところまで至っていないということも、もう少し改善すべきだと思う。

**石原館長** カードは5年間有効なので、小学生で登録したら、その後5年間使っていなくても登録していることになる。登録は残っているが、来なくなってしまう、借りなくなってしまうということかもしれない。先ほども述べたように、中学生が本を借りるよう、様々な事業を展開していきたい。

**佐藤委員** レファレンスについて聞きたい。内訳として「窓口」「電話」「web その他」とあるが、件数的に少ない印象を受ける。今、レファレンスツールは、ウェブベースのものがかなり出回っている。それらのものを図書館で積極的に導入していくという考えはあるか。また、以前から貴重資料のデジタル化、電子図書館によるパソコンからのアクセスについてをテーマにしていたと思うが、それらの進捗状況を知

りたい。写真資料はデジタル化されたものが墨田区内にたくさんあると聞いている。それをひきふね図書館に提供できるという説明が以前あった。

**石原館長** レファレンスの件数については、26年度まで、簡単な書架案内なども件数に入れていたので件数が多かった。それはレファレンスではないのでは、ということ、27年度から定義付けを変更したため、少ない件数になっている。現状、レファレンスがあればきちんと受けているが、まだまだ周知が行き届いていないので、まずは周知を徹底していきたい。今は、すべての図書館・図書室のカウンターにレファレンスの看板を出している。

**田中緑図書館長** レファレンスツールのデータベースに関しては、ジャパンナレッジ等の検索ソフトが各図書館・図書室のパソコンに入っている。使用アクセス数の制限もあるので、来館した際、図書館のパソコンで使ってもらっている。今は10種類ほどのデータベースが入っている。

**石原館長** 写真のデジタル資料については、図書館ホームページに載せているが、数は少ない。現在、すみだ郷土文化資料館と役割分担を行い、本や地図以外は、すみだ郷土文化資料館に移管を進めている。写真のデジタル資料についても、今後はすみだ郷土文化資料館で活用していく方向性である。

**北村委員** 今後はデータの推移を出してもらえると、皆も比較しやすいと思う。また、地域間格差の問題で最も気になるのは、今、墨田区で図書館とされているのは、ひきふね、緑、立花、八広の4館のみということだ。これだと、正確なデータは出てこないが、文部科学省で出している望ましい設置基準からは、完全にはずれてしまう状況だ。東駒形、梅若橋、横川コミュニティ会館図書室は、区民活動推進課の管轄なので、誰がモニタリングしていくのか気になる。墨田区の図書館全体の運営について、一体誰が考えるのかを、もう少し強化していかなければならないと思う。これから緑、立花、八広図書館が指定管理になるが、モニタリングが大きな鍵になるので、コミュニティ会館図書室のモニタリングについても問題提起し、何らかの改善をしていった方がいいと思う。

**石原館長** 墨田区の現状としては図書館法による図書館は4カ所で、それ以外の図書室が3カ所である。区民から見れば図書室も図書館と同じなのだが、図書室は図書館に準じる施設となっている。今後、指定管理者制度が導入されて、モニタリングをどう担保していくのかは大きな課題だ。会議体については、図書館が中心となって、図書館・図書室のスタッフを全員集め、毎月定例の会議をいくつか行っている。その中で、モニタリングについても、ひきふね図書館がリードしていく形で行っていくが、議論の中でさらに強化した方がいい部分も出ると思うので、十分検討していきたい。

**上田会長** 図書室の管理主体はどこなのか。

**石原館長** 区長部局の区民活動推進課という課である。

**上田会長** 図書館とは別の部局ということか。資料費は、どういう形で使っているのか。

**田中緑図書館長** 区民活動推進課に図書室3館分の予算がついているが、それらはすべて図書館に執行委任され、図書館で一体化して執行する形になっている。従って、7館の資料費については、すべて図書館で管理している。選書方法は、まず各館で1次選定し、それをひきふね図書館に集約して、そこで最終的な選書を行っている。

**上田会長** 図書室には専門職員がいるのか。

**石原館長** 図書室は指定管理者制度を導入している。

**北村委員** 図書室の指定管理者の選定についても、区民活動推進課が行っているのか。

**石原館長** そうである。

**北村委員** 私は梅若橋コミュニティ会館の最寄りなので、よく使っている。そこで小学校5年の息子が、「ハリー・ポッターと炎のゴブレットの下巻はどこですか」という簡単なレファレンスをしたところ、それは子どもには難しいから読むのをやめた方がいい、と言われた。これは決してサービスがいいとは言えないと思う。

**齊藤委員** 私の住所は緑図書館の近くだが、緑図書館の魅力が年々落ちていて、この頃はほとんど行っていない。障害者サービスについて言うと、恐らく障害者サービスで緑図書館を利用している人は、とても減っていると思う。図書館として障害者サービスにどのように取り組んでいくかは、我々ボランティアにとっても大切なことだが、墨田区には協治、協働というテーマがあるので、我々も加えてもらい、よりいい方向に持っていきたい。また、各館の格差があり、障害者サービスについては、ひきふね図書館が最も充実しており、緑図書館がとても落ちている。以前は緑図書館を使っていた人もたくさんいた。ひきふね図書館にサービスを集約したいという考えがあるのかもしれないが、障害のある人にとっては、利用しにくい状況になっている。これから緑図書館が指定管理になり、障害者サービス等でいろいろな問題が起きたとき、どこでどのように責任を持って決定や解決をするのか、今の状況では見えてこない。例えばひきふね図書館の中に苦情や意見を受けつける場所を作る等、何かはっきり方針を示してほしい。また、緑図書館の場合、録音室があるが、残念ながら録音機器を使える職員がいないという理由で、かなり前から使用禁止になっている。障害者サービス担当の職員が勉強して使えるようになり、ボランティアが使いやすくするように考えるのが当然だと思う。墨田区の図書館は障害者サービスが充実しているという話も外部から聞く。ぜひ各館でレベルを落とさずに同じようなサービスが受けられるようにしてほしい。また、誰が最後に責任を持って決めるのか、ということをはっきりさせてほしいと思う。さらに、視覚障害の人の読書サポートについては、単に点字を打てばいいだけではなく、IT機器等を使いこなさないといけない。使いこなせると、かなり多くの人にサポートできる。点訳資料も、視覚障害を持っている人だけでなく、マルチメディアデジター等いろいろ応

用が利き、様々な障害を持っている人に利用できる。図書館の障害者サービスの職員は、一般職員が異動して来るので、専門性を持っている人がいない。勉強しても何年かで異動になるので仕方がないが、専門性を持った人をどうやって育てていくか、もしくはボランティア団体とある程度協定を結んで、それらの業務を任せる等、そういうことを将来的に考えてもらえると、もう少し思い切ったサービスができると思う。学校と図書館とはつながりがあるが、障害のある人に対してどのようなサービスをしているか。例えば、依頼があれば我々が出かけていき、点字を打ったり、障害のある人について説明するなど、広範囲に渡って話をさせてもらっている。スカイ教育ネットワークという学校のネットワークへの登録や、ボランティアセンターへの登録をしているが、なかなか回ってこない。せっかく図書館が仲立ちしてくれているので、障害者サービス、読書支援に関しても、何か1つ柱を作ってもらい、図書館として関わってもらえるといいと思う。

**上田会長** まず、緑図書館における障害者サービスの提供の機会が減っていることについて、どうか。

**石原館長** 障害者サービスの各館の分担について、各館の地域に近い人が、近いところの図書館で、障害者サービスを受けてもらうという方向性なので、ひきふね図書館で集約していくという考えが前提ではない。齊藤委員の意見は、緑図書館に何か課題があるという指摘だと思う。利用数が減っているという現実に対して、どういう課題があり、どう解決していくのかについて、ボランティアの方々、当事者の方々の話を聞きながら、調査、検討していきたいと思う。

**上田会長** 指定管理になった場合にどうなるか、についてはどうか。

**石原館長** 指定管理になった場合は、ひきふね図書館が中心となり、ボランティアの方々との連携、サービス内容の水準維持、ルール決定等について、各館をまとめていくことになる。サービスについて現場で行うのは指定管理のスタッフだが、今後、それらのモニタリングについて、適正に行われているのかチェックできるようにしていきたい。

**上田会長** IT機器の話についてはどうか。

**石原館長** 障害者サービスを普及、促進しようとしている様々なNPOの方々とも連携しながら、そういう機器を使って、障害者サービスの内容をより充実していければと考えている。

**上田会長** 学校図書館への障害者サービスの紹介等については。

**石原館長** 先ほどと同様、小・中学校の図書館部会等と課題を共有し、検討していけたらと考えている。

**持田委員** 地域格差の問題については、以前からお願いしていることだが、せめて貸したり返したり予約本を受け取れるだけの窓口でいいので、区内の公共施設に窓口を置いてほしい。特に今年度は、3館の図書館が工事で休館するので、いっそうそ

ういう窓口が必要だと思う。それらの対応はどうなっているのか。また、私は学校司書をしているので感じるのだが、最近児童書の購入数が少ないのではないか。ブックトークをするために、いいと思う本に予約をかけても、区内に1冊しかなかったりする。ブックトークの会を始めた最初の頃は、昔の本は複本が何冊かあって墨田区は児童書が手厚いという印象を持っていた。しかし最近、ブックトークをするときに複本が少なくなっていると感じる。複本がなくて困るのは、子どもたちに本を紹介した際、子どもたちが読みたいと思ったのに区内に1冊しかなかったとき、紹介しづらくなってしまうことである。また、学校間を定期的に回る配送車はまだやっていないと思うが、学校できちんと図書館資料を利用するとすると、週2回くらいは配送するようにしないと授業のための資料が揃わない。中学校では貸し借りができるとのことだが、小学校ではこれからどのようにしていくのか。最後に、レファレンスが少ないという話もあったが、この言葉を大人で知っている人がどれほどいるのか。やはり図書館教育は学校からだと思っている。学校で、図書館の分類、資料の使い方、調べることの大切さを学校司書が授業中に教えていくのだが、今は週2日、1日5時間、しかも委託の人なので、きちんと学校と連携が取れておらず、図書館教育が十分にできないと思う。この辺りをもう少し手厚くするために、どのようなことを考えているのか。

**石原館長** 3館が一定期間休館になるので、ブックポストについては、可能な限り開けておく予定だ。緑図書館については、臨時の窓口を設置し、予約した資料について、貸りたり返したりできるよう対応する予定である。

**上田会長** 一般的な話だが、最近はウェブで予約ができるようになって、その本を借りる場所と返却する場所があればいいということで、駅に小規模なサービスセンターのようなものを設置する自治体もあるようだ。それらのことは何か考えているのか。

**石原館長** 駅前にサービスポイントを設置している自治体もあり、利便性においては非常に有効な手段だと認識している。ただ現状、図書館アンケート等ではそういう意見は出てきていない。館内にアンケートボックスがあり、またイベントの際にもアンケートを行うが、そういった要望はないのが現状だ。

**上田会長** 児童書の購入数の件については、どうか。

**石原館長** これまでは全体的に資料購入費の予算が厳しい状況だった。児童書の購入を減らしたのかについては、今すぐにはわからないが、そういうことはないと思う。ただ、平成29年度からの条例改正に伴い、墨田区は今年度、資料購入費が増えた。図書館は非常に重要な施設と捉えられるようになったのではないか。それが予算に反映されたので、今後も資料費については充実させていきたいと考えている。

**持田委員** いわゆる「良い本」と「良い本ではない」という線引きはあると思う。「これはある程度複本が必要だ」、「これは必要ないだろう」、というような選書内容自

体、今は少し怪しいのではないか、という気がしている。どうしてこの本をもう少し買っていないのだろう、と感じている。

**石原館長** それについては担当職員が、本のアドバイスを聞ける場や時間があると、解消に向かうのではないかと思う。

**持田委員** 児童書を選ぶ専門性の問題だと思う。区民からの意見で選ぶということになると、それは専門性とは違うような気もする。プロは誰だという話になる。

**石原館長** 図書の選書やレファレンスについては、本当に専門性が大事だ。数年でできるスキルではないと思う。職員も日々自己研鑽をしている。今回の意見を伝えておきたい。

**上田会長** 小学校の学校予約については、どうか。

**石原館長** 学校予約については、この6月に中学校がスタートしたところだ。しばらくは、中学校の実績を見て行きたいと思う。小学校については、その後検討していくことになるかと考えている。

**上田会長** 学校間の配送車については。

**石原館長** 授業支援に関する本の配送については、要望があれば協力できる。まずは、学校の先生からの要望が高まっていき、実績が増えていくのを見守っているところである。

**日向副会長** 利用統計について数字で見た場合、非常に盛んに活動されている。人口1人当たりの貸出冊数も約7冊というのはかなり高い方だ。ひきふね図書館の来館者数は1日当たり約1,500人で、これもかなり多い。また、域内の人口の37.4%の人が区内のどこかの図書館に登録しているのは、全国的に見てもかなり高いので、図書館の素地としては非常に良い。しかし、今図書館に求められているサービスは多様化しており、例えば学校図書館との連携や、障害者も含めて様々な団体との細かなサービスがある。館長の回答を聞いていて思ったのは、実績や要望が出てからサービスを用意するのは非常にやりやすいが、本来は要望をどう掘り起こすか、あるいは要望を予測してサービスを用意していくことが大切だ。サービスを開始したことによって、隠れていたニーズが出てくるような活動をしていく必要があると思う。もちろんそれは大変なことだ。市民側から、こういう事例がある、この地域にこういう人がいるから、ぜひこういうところを何とかしてほしい、と声を上げていくことは確かに重要だが、実績やこれまでのデータからできることはそれほど難しくはない。アンケートは図書館に来た人に行っていると思う。注意しなければならないのは、図書館に来た人にアンケートをしても、それらの人は当然満足して来ているわけで、嫌な人はそもそも来ない。それなので、今見えていないものを見ていくためには、少人数でもいいので普段来ない人にヒアリングをし、何か問題点はあるかと聞いていく。この場にもいろいろな団体の代表がいるが、この場にいる人は図書館に好意的な人が多い。そうではなく、来ない人に対して、例えば市役

所の職員で、普段あまり図書館に来ない人もいるのでランダムに聞いてみるといい。若手職員や子育てをしている人たちに聞いてみる。そうすると現場感覚がわかる。次に、学校図書館との連携については、今はどの地域でも学習指導要領が変更になったり、学校図書館を使つての教育というのが重要になってくる、と認識している先生が多い。学校司書の人にもその認識はあるが、学校司書は1人しかいないし、学校図書館には本がないし、公共図書館に行ってもなかなか話ができないので、どうすればいいかわからずパニックになっている。これは区として、きちんとした組織を作った方がいい。具体的には学校図書館の支援センター等を設置する動きが他の地域でもある。公共図書館の中に作るよりも、区の組織としてきちんと設置した方がいいと思う。配送や物流や人の問題等、様々な問題が出てくるので、それらの対応をしていくセクションが必要だ。図書館だけで対応しようとする、すごく大変だし、そもそもできないと思うので、いろいろな人が関わる形で作っていく。そういう組織を5年、10年かけて計画していく必要がある。また、障害者サービスに関しては、今年の4月から義務化されている。学校、図書館、他の施設も全部そうである。今、最も困るのは、市民の街中だけで不満が出ていて、伝わってこないことだ。細かなニーズに対応しなければいけないのが難しいところだ。どちらかと言うと行政は、いろいろな人に目を配るので、個別に対応するというのは不得意なので、それらの情報共有が、まだまだ足りていないのではないかと思う。例えば緑図書館でこういう事例があったと庁内で情報共有し、それならば庁内の別の部署から人材を派遣できる等、対応できる部分もある。そういう情報共有システムを作っていけばいいと思う。最後に児童書の選書だが、これは児童書に限らず、一般向けの本についても、もしかしたら、待ち時間が長い、読みたい本があまりない、リクエストをしたが買ってくれない、買っている本がいまいちという選書のミスマッチ等、様々な不満を持っている人がいるかもしれない。図書館員は選書方針を公表した上で、今年はこの方針で選んで行こうと決め、多くの本を選んでいくことになる。こういう協議会の場で、それらの選書方針を決め、それをシステム化、例えば本を選んだ理由をいくつか出してもらい、市民側から意見が言えるような形を作っていたらどうかと感じた。もちろん図書館員が責任を持って選ぶということは、はずしてはいけないと思う。普通の人を買いたい本と、公費で買う本とは違いがあるので、きちんと選び、それぞれの本をなぜ選んだかを、きちんと説明することが必要だ。それらのことをした上で、今言ったような意見が反映できるシステムを作れたらいい。選書に関しての意見交換ができる場を年に何回か持つてもらっただけでも、かなりいいと思うので、そういう方針決めのシステム化について、考えてもらえればと思う。私は皆の意見をまとめたただけなので、その中で感じたことを言わせてもらった。

**白木主事** 日向副会長が指摘された登録率について事務局から補足する。統計上に記

載の登録者数、貸出者数等は、図書館の利用登録者全体での数値であり、在住者だけの数値ではない。在住、在学、在勤、隣接区在住の人が登録対象者なので、それらの合計値の記載である。在住のみの登録者数については、6月1日時点で約7万7千人なので、墨田区の人口に対する区内在住登録は、約29%となっている。

**上田会長** 5年間は登録が有効となると、実際に使っている登録者数はあまり信頼できない数値なので、登録率についてもそれほど重要な数値ではない、と今は一般的には言われているかと思う。それで見ても高いことは確かだが、他と比べてどうかというのは難しい数値だ。

**石原館長** 墨田区立図書館は区民によく利用されている傾向があると思う。様々な課題への対応については、関係機関や関係者と連携しながら、1つずつ検討したいと思う。

**上田会長** 本離れや青少年の読書に関する問題、それから障害者サービス、レファレンス等は、どこの公共図書館でも共通した問題だが、墨田区特有の問題として、地域間の格差を多くの委員が挙げていたのが印象的だ。このひきふね図書館については、2つの駅の駅前、非常に新しい外観で、これらは今、来館者を増やすとても大きな要素と一般的に言われていて、それを実現している感じだ。ツタヤ図書館で問題になった小牧市はそれを狙って、駅前の再開発ビルの中に図書館を入れようとして市民の反対にあったが、ひきふね図書館はそれを実現していて、それなりに支持を得ていることがよくわかった。ただ、私は緑図書館も見たが、正直言って建物の問題が大きいと思う。建物が新しくなれば、それなりに解決される問題がたくさんあるというのが、実際のところだろう。

### 議事第3

#### 指定管理者制度導入の進捗報告

**上田会長** 事務局に説明をお願いしたい。

**石原館長** 配布資料（墨田区立図書館における指定管理者制度の進捗報告）について説明

**上田会長** 今の説明について、何か質問や意見はあるか。

**碓氷委員** どのような業務を任せることになるのか。

**石原館長** 管理運営自体を3館それぞれ事業者任せるので、ひきふね図書館がその中心的役割として、モニタリング、選書の最終決定、ボランティア育成、事業計画、図書館施策等についてリードしていく、という形になる。

**北村委員** 先ほど募集要項等を見ようとしたら、すでにネット上から削除されていた。審査基準等は、どこかで公表されないのか。

**石原館長** 図書館ホームページで、募集要項や要求水準についてアップしていく予定でいる。

北村委員 募集要項の発表が5月21日で、6月3日の説明会に行かないと応募できない条件だった。実質10日ほどの短い期間だが、これはどうしてなのか。

石原館長 説明会の参加については特段条件がなく、申込みをしてくれれば参加できる。

北村委員 20日までに申し込めばいいので、1カ月あれば十分ということか。

石原館長 期間については区の要綱があり、それに則った形で期間を設定した。

上田会長 募集要項や要求水準がホームページに掲載されて、今はもう公開終了になっているということか。

北村委員 募集の時点では、図書館ホームページに載っていたが、今検索すると、そのページは削除されたとなっているので、現状は載っていない。

石原館長 これまでコミュニティ会館の募集時も、同じような形で行っていた。

持田委員 選定委員会とはどのようなものなのか。

石原館長 副区長、企画経営室長など、区の幹部職員が委員となっている。

上田会長 区民代表や第三者の方々は入っていないのか。

石原館長 公認会計士の方が委員になっている。

上田会長 それは応募団体の財政を見る人だと思うが、その他は。

石原館長 墨田区においては、その他の第三者はいない。

持田委員 選定委員会における図書館業務の正確な理解について、図書館としてはどのように担保するのか。

石原館長 7月中旬に実施予定の事業者のプレゼンテーションにおいて、まず図書館の課長級、係長級、担当者レベルでの検討が行われる。その中で、図書館業務がきちんとできるか精査していく。その後、部長級以上の職員などで構成される選定委員会にて、選考していくことになる。

上田会長 今の持田委員の質問は、図書館に関する専門的知識を持った人は、選定委員の中に含まれているか、ということだと思うが。

石原館長 区の幹部職員だが、かつて図書館に勤めていたことがあり、図書館に関する知識を持つ職員もいる。

熊倉次長 主管課として、教育委員会の部長級の職員や石原館長が、その選定委員会の場にいるので、図書館に関する質問については、そこで細かく回答していく形にはなっている。

北村委員 持田委員の質問の真意は、普通の施設の指定管理者を決めるのであれば区の幹部職員でもわかるが、図書館は少し特殊な施設なので、専門的知識のある人が選定に関わるべきではないか、ということだと思う。協議会の場でこの資料を出されても、これは単に報告であり、協議会の意見が反映されるような可能性はないということか。

石原館長 どの業者を選定するかについて、直接的に区民の方々の声が届くという形

ではないが、当初の選定作業から図書館のメンバーが加わっているので、これまでの協議会の意見も十分に鑑みながら、プレゼンテーションに望むという形になっている。

#### 議事第4

##### その他

**上田会長** その他、委員から何か質問や意見はあるか。

**碓氷委員** 予算の話があったが、新刊本を買っているのか。それとも例えば古本でも割と質のいい本がアマゾンなどで購入できるが、それらを利用しているのか。古本なら予算的に楽になると思うが。

**石原館長** これまで中古本を購入した経緯はない。

**碓氷委員** 1度検討してはどうか。ブックカバーを貼るといった作業はあるが、中古でもかなり良質でいい本が入手できる。専門性が高く、選択範囲の広い良い本が集められると思う。例えば今、「火花」はどこの図書館へ行っても入手できないが、古本で入手できることもある。それから、緑図書館の近くにすみだ北斎美術館ができる。内覧会で施設内を見てきたが、図書室ができるようだ。そういうところとの連携はどうなっているのか。もう1点は、広報の問題だ。来年度、緑図書館が月曜日も午後8時まで開館となれば、これは非常にいいことなので効果的に広報してほしい。ホームページに載せるだけでなく、何かのお知らせを希望者に配信する等すれば、効果的だと思う。

**石原館長** 緑図書館のすぐ隣にすみだ北斎美術館が11月にオープンする。施設内に図書室があるが、これは墨田区の図書館や図書室とは違う。これからの図書館は、区内の図書館や博物館と連携して情報発信をしていくことが課題で、具体的な連携については、これから行っていくことになる。また広報については、利便性が高まるということで行ってみようという人も多いと思うので、様々な広報をしていきたい。中古本についてだが、図書館の本はブッカーを貼り、同時にICタグを付けるなど、意外と多くの装備作業がある。中古本だとそれらの作業を新たに行う必要があるので、手間がかかる部分もある。

**碓氷委員** 中古本というより新古本と言った方がいいと思う。読みたいという要望があれば、そういうところから探すのも1つの手段だと思う。選択範囲を広げるという観点から考えてほしい。

**石原館長** 例えば「火花」のような人気本はそういうところから買ってもいいのではということだと認識しているが、複本については、出版業界にとっても様々な問題が生じている。複本をたくさん揃えることは、人気本の予約を待っている住民にとっては嬉しいことかもしれないが、一方で出版業界を圧迫しているという話もあり、複本についてはとても難しく、様々な課題がある。

**上田会長** 「火花」は今、予約が700件ほどで、17冊所蔵されていると思う。これ以上複本は増やさない方針だと思う。今話題になっているのは、寄贈をどうするかということだ。それについてはどういう方針か。

**北村委員** 墨田区はホームページ上で、寄贈の受付をお願いしている。

**上田会長** 寄贈を募ること自体が、出版業界にとっては望ましくないという意見がある。

**石原館長** 人気のある本の寄贈を募って、実際にどれくらい寄贈されているのかについては、今すぐには数字は出ない。

**田中緑図書館長** リクエストの多い本についてどのように対応するのかという検討の中で、寄贈の利用についても議論をした。限られた予算の中で、どこまで購入するかについて、購入する複本の上限を決めた。それ以上については申し訳ないが、区民に寄贈してもらおうということで対応していくこととし、現状として、ホームページにはその旨お願いしているところだ。出版業界との関係もあるが、基本的に図書館としては、複本購入に必要以上の予算を使うのではなく、限られた予算の中でいろいろな本を揃えて、区民に提供していきたいと考えている。

**齊藤委員** 障害者サービスについて、ボランティアに対してかなり昔から図書館で行われてきた。しかし、これは図書館に何らかの需要があり、それをボランティアの方をお願いするという流れが、ずっと続いている。図書館をお願いされてやるのではなく、サービスに関して図書館と対等に話し合いをして、いろいろな方向に進めていこうというのが、ここ最近の協働だと思うが、障害者サービスは古くからあるので、図書館職員、ボランティアとも、昔のままの認識になっている。できれば他の新しいボランティアと同じように、協働という形で、一緒に意見を述べて、一緒に高めていく、というようにしてほしい。先ほどのIT化の話もそうだが、専門的技術が必要とされるが、異動がある。異動を前提に、どうやってサービスを維持していくかということ、ボランティアの方々がそこにどう関わっていくのか、ということが当然必要になると思う。それらをどうやって進めていくかを、これからの課題として考えてもらえればと思う。もちろん、できることは協力していきたいと思っている。

**成田委員** 指定管理者制度の件で聞きたい。すでに申込みが終わっているとのことだが、現状、どういった団体が申し込んできているのか。団体の数も教えてほしい。

**石原館長** 今の時点では答えることはできない。

**北村委員** 運営協議会そのものへの要望だが、今日たくさん意見が出たと思う。この場で解決しない問題や、今後考えていくべき長期的な課題も出たと思うので、次回以降の運営協議会で、その辺りの進捗について教えてもらえると、この協議会自体が実のあるものになると思う。「検討したが、まだ答えは出ていない。」でも構わないので、お願いしたい。

上田会長 以上で、第1回墨田区図書館運営協議会を閉会する。